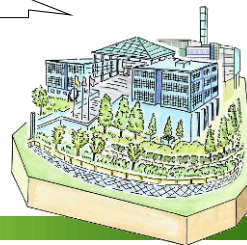
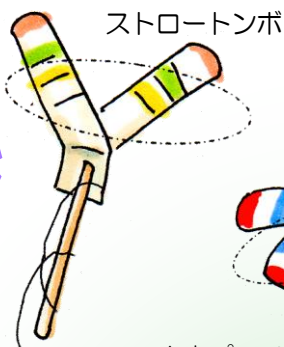


しみんけんきゅうニュース



発行:(公財)千里リサイクルプラザ 研究所 〒565-0826 大阪府吹田市千里万博公園4-3
TEL 06-6877-5300 FAX 06-6876-0530 <http://www.senri-recycleplaza.or.jp/>

手作りおもちゃと
環境PTでは
おもちゃ作りを通じ
環境啓発と
世代間交流を
行っております

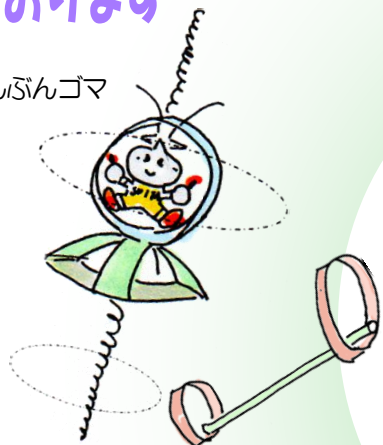


十字プロペラ

【目次】

- P2-3 手作りおもちゃと環境 PT からの発信
- P4 第1回市民研究員研修講座
- P5 7・8月の予定
- P6 施設案内員募集
- P7 くるくるプラザ環境スクール2回目
- P8-9 くるくるエコキッズフェスタ
- P10 くるくるプラザ環境スクール3回目

UFO ぶんぶんゴマ



ストローヒコーキ



風車



からくり屏風



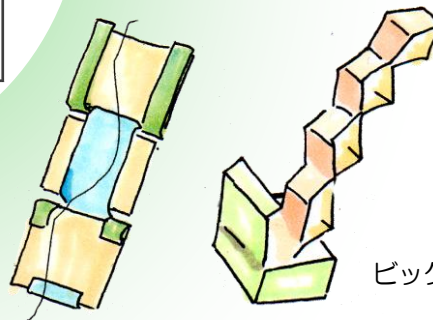
はねカエル



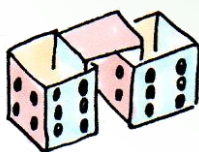
自動車



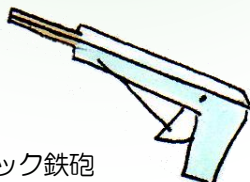
万華鏡



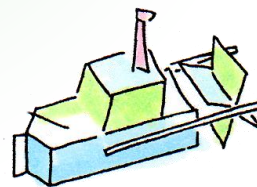
ビックリ箱



サイコロキューブ



牛乳パック鉄砲



水車ポート

地震により被災された皆様にお見舞い申し上げます。
当プラザでも 一部施設の破損があり、現在休館しております。
今後安全が確認され再開しましたら、HP 等でお知らせします。

また停電防止のため、夏のピーク時の節電にご協力下さい。

== 施設案内をして下さる方を募集しています(詳しくは事務局まで) ==



楽しいリサイクル体験で環境学習を支援しています！

手作りおもちゃと環境 PT 綿谷 一

「手作りおもちゃと環境プロジェクトチーム」は現在、研究員9名で活動し、市内の小学校36校の内9校各々3回、その他公民館等の出前講座、プラザのイベントでのおもちゃ作り体験など、年間45回以上の支援を行っています。

廃品（主に紙パック）を再利用した手作りおもちゃの指導を通して、ゴミの減量化と環境問題の啓発・意識の向上に関心を持ってもらうように、活動を行っています。

「手作りおもちゃ」は基本的に“動きのあるおもちゃ”を作るため、おもちゃを完成させた後それを使って遊ぶことができます。そして、おもちゃを上手に使ってうまく遊ぶことも教えます。

メニューとして、16種以上のおもちゃを用意し、小学校の学習支援時に、マニュアルを持って帰ってもらい、家でも家族と一緒に作ってもらうようにしています。



最近では「水車ボート」・「2連風車」・「十字プロペラ」・「レーシングカー」・「ビー玉万華鏡」、等人気のあるおもちゃを作っています。



1時間の授業で（45分の学校もあります）おもちゃを作成します。

最初の授業で牛乳パックをリサイクルすると、トイレトペーパーができることの説明を5分程度話し、作業にかかります。

今年は最終の授業に、「振り返りシート」を配布し、一番良かったおもちゃと、感想を書いてもらい、今後の指導の参考にしていく予定です。

出前講座は、公民館に行き地域の児童におもちゃ作りの楽しさを知ってもらう活動を行っています。小学校低学年の児童の参加が多く、児童に合わせたおもちゃの選定を行っています。

おもちゃの種類により、高齢者の参加もあるのが公民館の特徴です。幅広い年齢層の作業は進み具合など、配慮する必要があります。



各種フェアでのおもちゃ作り体験は、エキスポシティなどで開催され、幼児が多く、人数も100前後の参加者があります。フェアが終わると忙しかったことを忘れ、達成感が得られています。

年齢層が低くなるほどストレートに喜びを表現してもらっています。

支援をすると参加者の自分一人ですでできた喜びの笑顔や我々に感謝の言葉を投げて頂くたびに、逆に何倍もの感動を頂いています。

読者の皆様、こんな素晴らしい活動を、共に体験しませんか。おもちゃ作りは難しくはなく、わからないところはメンバーがポイントを指導しますのでだれでも参加できます。

自分を元気づけるためにも、手作りおもちゃと環境プロジェクトの研究員に是非参加してみてください。

連絡先：公益財団法人 千里リサイクルプラザ

TEL：06-6877-5300

手作りおもちゃと環境プロジェクト までご連絡ください。

手づくりおもちゃと環境PTからの発信

手作りおもちゃと環境 PT 仲倉 弘文

完成したおもちゃで遊んでる時の屈託のない笑い声、大きな声で自慢する声、子どもたちのこんな声に励まされ、喜びを感じている「手づくりおもちゃと環境プロジェクトチーム（以後PT）」です。

「手作りおもちゃと環境PT」は研究員9名で構成し、市内の小学校での「学習支援」、公民館等への「出前講座」、プラザのイベントでの「手作りおもちゃ教室」など年間50回近い支援を行っています。

「学習支援」はメンバーが小学校へ出向き、課外活動の一つとしておもちゃ作りを行います。くるくるプラザのPTとして活動するので、材料は廃品である“牛乳パック”を利用したおもちゃを手作りすることにして

います。右は「手作りおもちゃと環境PT」が平成25年にまとめた16種の「手作りおもちゃのマニュアル」です。これをベースに新たに追加したおもちゃを加え、できるだけ違ったおもちゃを提供するようにしています。



マニュアル

（特に学習支援では毎年参加してくれても毎回違ったおもちゃになるよう工夫しています。）

子どもたちが喜ぶおもちゃは、「動き」のあるものや手品のような「あれ？」と驚きのあるおもちゃです。

学習支援では45分～1時間内でおもちゃを完成し、実際に遊ぶことができるまで指導します。

実際に作っているおもちゃの中で、新たに追加したおもちゃ“レーシングカー”を紹介します。材料（すべて廃品を利用）は、牛乳パック（本体）・ペットボトルの蓋（タ



レーシングカー

イヤ）・段ボール（タイヤのホイール）・厚手の広告用紙（引張用の棒）を使用し、児童に本体用の牛乳パックにマジックで色付けをしてもらいます。

パーツごとに色を変えたり、絵を書いたり、出来上がったものはオンリーワンのおもちゃとなります。

次に、昨年から少し改良を加えたおもちゃ“オイル万華鏡”を紹介します。

従来オブジェクト（具）を入れるケー



オイル万

スは何も入れずに使用していましたが、今回、オイルを入れたことにより、オブジェクトが徐々に移動することにより、ゆっくり変化する映像が好評でした。これは親子で参加する「万華鏡教室」の作品で出来栄に親子共によろこんでもらえました。

当然従来からの作品である「十字プロペラ」や「UFOぶぶんゴマ」等も根強い人気の作品です。



「十字プロペラ」で楽しむ

チームの活動目的は、先に述べたように、ゴミの減量化に関心を持ち、環境問題への意識を向上してもらうことです。そのため、今年度は廃品の牛乳パックでおもちゃを作って楽しむのに加え、「環境問題」についてより意識付けされるよう学習支援の始まりに環境に関するクイズを行っています。

一方的な“教え”は頭に残らないことが多く、児童が興味を持つようなクイズ（例えば牛乳パック何個でトイレトペーパー1個ができるか？等）をいろいろ考えて楽しく「環境問題」の意識付けの一助となるよう取り組んでいます。

より楽しく期待される学習支援となるよう、アンケートをとったりして毎年少しずつでも進化させ、子どもたちの歓喜の声がいつまでも聞けるようPTメンバーも努力を続けていくつもりです。

第1回 市民研究員研究講座を聞いて

エコ体験PT

金子 幸平

題：「そうだったのか!」「やってみたい!」実感から学びにつなげる
環境学習における体験活動の充実に向けて 講師：坂下 剛 氏

講師の坂下氏は吹田市教育委員会 学校教育部指導室主幹をされています。吹田市の小中学校の校長先生や教頭先生に 文科省の学習指導要領に従って教育学習について指導をしているとのこと。さらに、坂下氏は 17 年間小学校の教諭を経験された方で、ベテランの先生です。まだお若い働き盛りの熱意ある教育者だとお見受けいたしました。

さて、先生は子どもが“体験をする”ことが子どもの教育に大切なことだと言われます。例えばキャンプでの薪割や火起しなど。また、小学生が稲刈りなどの“実体験”をさせることが大事だと考えておられます。

子どもたちが立派な社会人としての力をつけて育つためには、学校の学習は学習指導要領に基づいたカリキュラム・マネジメントが大切なのだそうです。

小学校の学習指導要領が平成 32 年度から改訂されるそうで、改訂のキーワードは「主体的で対話的な深い学び」で、「なんでやろ?」「どうして?」の疑問を子どもたち各自が主体的にコミュニケーションをとりながら疑問を解いて行き、皆が「なるほど!」と納得しながら学び、子どもたちの学力を向上させる仕組み作りになるようです。

子どもたちは学年によって周りの関心や関わり方が違うので、それに沿った学習カリキュラムを考えることが大切です。例えば、低学年の子どもは「自分のこと」「身近な人・身近な事」に関心が強く、中学年の子は「友達」「生活の事」に、高学年の子どもは「社会問題の事」などに興味を持ってくるそうです。

学習は、子どもたちが学習して達成感を感じて「楽しい」ことがまず第一だが、“導入”から“学習本題”へ、そして“学習のまとめ”へと導く



坂下 剛 講師

起承転結があるカリキュラムの設計が大切だとの事です。また、さらに、学校の教師だけでなく、地域の人や地域の事、さらに家庭の協力があってこそ、子どもの学力が向上し、立派な社会人に育てあげることができるというお話でした。

この度、先生のお話を聞いて、私達が環境学習支援活動を展開するにあたり非常に参考になりました。私達エコ体験プロジェクトチームは、吹田市の小学校のクラブ活動の時間を借りて、4 年生から 6 年生のエコクラブの子ども達に環境に関わる学習をしています。ごみの分別の大切さを学ぶ「紙すき体験」、恵まれた水に感謝の「水の話」、身近な行動中のエコを考える「エコゲーム」、地球に優しい電気を考える「電気の話」。これらの 4 つの学習ツールは、共通して子どもたちに理解できるように、体験の道具を用意したり、映像で資料を見せて、巧みなレクチャーで、導入から本番へ、そして“まとめ”まで、しっかりと内容が構成されています。私達の環境学習支援活動を坂下先生に参観していただけたら、私達の環境学習の内容と展開を“すばらしい!”と褒めていただけること間違いなしです。

くるくるプラザ環境 school 『男性にもできるエコ・クッキング』

エコイベント PT 阿部節

平成30年4月開校した環境スクール2回目の講座、「男性にもできるエコ・クッキング」が4月28日(土)10時より大阪ガスクッキングスクール千里において開催されました。参加者は18名(男性11名、女性7名)。



初めに講師をしていただいた大阪ガス(株)の松澤さんより、地球環境のことを考えて「買い物」「調理」「片づけ」をする「エコ・クッキング」についてのお話を伺いました。私たちは買い物から片づけまで、すべての過程で資源やエネルギーをたくさん使っている。環境にやさしい食生活をめざすには、栽培や運搬時に使われるエネルギーが少ない地元でとれた旬のものを選び、地産地消を心掛ける。他にも、食材を丸ごと使う方法(これは生ごみが減ります)。加熱調理する時は最適な火力を心掛けエネルギーを上手に使う。洗い物をするときは、洗う前に鍋や皿の汚れをウエスでふき取る(節水になり水を汚さない)。そして料理を無駄にしないように、食べられる分量を作るなど、環境について学習しました。実践していることもあります。より環境を意識しながら買い物、調理、片づけをすることが大事なのだと思います。

次に調理実習について。インストラクターが実際に調理をしながら、調理の手順、作り方の注意点など説明がありました。モニターを使った説明はとてもわかり易かったです。

<メニュー>

白身魚(鯛)の甘酢ソース、豚肉と季節野菜の炒め物、エコきんぴら、貝柱のスープ、ご飯、ゆず豆乳寒天の6品。



調理実習

4つの班に分かれ調理台へ移動、しっかりと手を洗い、いよいよ「エコ・クッキング」スタートです。各班に1人インストラクターが付いてくれ丁寧に指導して頂きました。

調理台にはメニューごとに材料が分けられていて間違え事無く取り掛かれるようになっていました。まず時間のかかるご飯の炊き方を教わりスイッチON。次に班の中で作るメニューの担当を決め下ごしらえ。テキストを見つつインストラクターの指導を受けながら次々と準備。人参は皮付きのまま、野菜の炒め物に使うキャベツ、グリーンアスパラガスの捨ててしまうような芯や固い部分はエコきんぴらに利用。そして野菜の下茹でしたゆで汁は貝柱のスープに利用、等々本当に無駄なく食材を使いました。最後に残った生ごみは各班少量でした。下ごしらえが終わればそれぞれのメニューの調理。煮たり焼いたり炒めたり。空いた時間には手分けして洗い物、最初に教えて頂いた方法を実践し洗剤も少量で洗うことが出来ました。便利な調理機器を使いながら約1時間で料理は完成。お料理を彩りよくお皿に盛り付け、出来上がった班から試食の時間。どのお料理も本当に美味しく残さずいただきました。

受講された方も「美味しかった」「楽しかった」「家でも料理を作りたい」との感想でした。



完成した料理

食材を手配し調理してくれた人へ感謝を込めてごちそうさまでした

くるくるエコキッズフェスタ

ごみ調査研究PT 下村 敬三

日時 2018年5月6日(日)

10:00~14:00

場所 くるくるプラザ

ゴールデンウィークの最終日、天気にも恵まれ、約1,600人の来場者があった。

かえっこバザールを始め、いつもの、フリーマーケットほか、プラザの工房などによる、リサイクル体験が行われた。

主なるイベントは
「かえっこバザール」



のように、たくさんのおもちゃが、会場いっぱいに広げられ、使わなくなったおもちゃを持参し、ポイントに交換し、自分の好きなおもちゃと交換する。幼児から、小学生までで、終日にぎわった。自分の目当てのおもちゃがあれば多少のポイントを使って交換する。ポイントが足りないと、体験コーナーでポイントを稼いで、おもちゃの交換をする。この変えっこバザールは、最近では、3月25日にも、南千里ラコルタでも開催しており、どちらの会場にもたくさんの子供達、親御さんが来場している。来場者は、吹田市内だけでなく、豊中市、箕面市、茨木市、摂津市などからもあった。

おもちゃのリユースが広がり、物を大事にすることが子供達だけでなく認識されれば、意義のあるイベントである。「もったいない」がいろんなことに広がればと思う。

来場者は、**350人**であった。

幼児から子供さんが、くるくるプラザに、多く来場することは、いろんな意味で、意義があることであり、環境の輪が広がる素因になってくれれば、非常に意味があると思われる。



市内の大和大学からの学生ボランティア



小学生の活動を大学生が手伝いました

当日行われた他の活動には

***工房リサイクル体験 参加者数**

・手作りおもちゃ体験	30人
・布体験	16人
・木工体験	20人
・陶芸絵付け体験	29人
・バーナーワーク	40人
・紙すき工房（無料体験）	118人

***大学生サークル体験 参加者**

・廃油キャンドル	20人
・ポップアップカード	32人

***その他のコーナー参加者**

・人形劇	大人40人こども60人
・エコ迷路	100人

などの参加者があった。

このイベントの特色として、従来の大人を対象としたフリーマーケットではなく、フリーマーケットの販売者にも子ども向けのグッズの販売を呼びかけ、来場する子どもを対象とした「人形劇」や「木で遊べるコーナー」自転車をこいで電気を起こし電車や模型自動車を走らせる「原始力発電」など、子どもが興味をもって参加できる内容を多く取り入れていることにある。

このような取り組みを繰り返し行うことにより、フリーマーケットに来場する購入者の年齢層が飛躍的に若返って来ていると聞いている。



自転車による原始力発電



木育コーナーで遊ぶ子どもたち

その他には、フリーマーケットの買い物他おもちゃ病院、などにもたくさんの参加者があり大変にぎわった。

たくさんの来場者があるので、このときに市民研究所の各プロジェクトチームのコーナーを確保して、宣伝、展示、体験、パフォーマンス等を、市民研究員募集を兼ねて実行してはと思われる。今後検討の必要があります。

第3回環境スクール講座 報告

(5月19日(土) アサヒビール吹田工場にて)

市民とお店PT 五十川 有香

今回は、地元企業のアサヒビール(株)の製造過程、また、環境に配慮した取組を学びました。見学日程は以下のとおりです。

- ①9時に現地集合
- ②映像10分でアサヒビールの取組を紹介
- ③工場案内
- ④ビール等試飲



まず、映像にてアサヒビールの社員の方の熱意、期間限定新商品が紹介されました。工場案内は、全国のアサヒビールグループ工場の紹介(吹田工場は1891(明治21)年から操業開始をされたとのこと)から始まり、原料の水、ポップ、大麦等の説明、麦汁のつくり方、ろ過、ビン詰等の工程を実際の工場内を見学して学びました。

案内の方の「ビン詰は上からビールを流しますが、缶はどちらからビールを流し込むか?」というひっかけ問題があったり、「1分間でビンが600本、缶が1500缶詰める」という報告があったりと、参加者は、「すごい!!」「それならたくさん消費してもなくなることを心配しなくていいね。」等楽しく見学できました。

また、ビールの品質管理等をしているソムリエならぬパネリストによる官能検査は、1時間で一人あたり2リットル飲まれているとのことでした。

さて、「環境スクール」としてきているので、環境に配慮した取組等を注目したいところなのですが、最後に説明がありました。

アサヒビールグループは、「自然の恵みを明日へ」という言葉をスローガンに「低炭素社会の構築」「循環型社会の形成」「生物多様性の保全」「自然の恵みの啓発」という4つのテーマを柱として、環境の課題に対して積極的に取り組み、持続可能な社会に貢献していくことを掲げておられ、実際に、缶体のアルミの使用量の削減、社有林「アサヒの森」等の森林保全活動・間伐材の有効利用・生き物の生育、副産物・廃棄物再資源化100%の取組等、さまざまな活動に取り組まれていることが分かりました。

詳しい説明は、この一般的な工場見学の場ではされていませんでしたが、後日、改めて詳しく尋ねてみるのもいいかもしれませんね。

以上、皆さんの身近な地元企業でも多くの方が関わり、ものを生み出しているという仕組みを理解し、消費者である私たちも一人ひとり、おいしくいただいて、資源として返していくという循環型社会形成の一員になっていければと思います。

